

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
国語	国語総合	2	1	セラミック、デザイン 電気、機械	必修	「新編国語総合改訂版」 大修館書店

1. 学習の到達目標

<ol style="list-style-type: none"> 1 国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める。 2 思考力を伸ばし心情を豊かにする。 3 言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。 4 国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・ 態度	話す・聞く 能力	書く能力	読む能力	知識・理解
評価の規準	国語や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図り、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとする。	自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ったりする	自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章に書く。	自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり読書に親しんだりする。	表現と理解に役立てるための音声文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身につけている。
評価の方法	授業態度、学習の取り組み状況、課題・宿題・ノートなどの提出物の状況、定期考査、基礎力テストなどを総合的に判断して評価します。				

3. 教科からのメッセージ

人間は言葉によって思考します。言葉を理解する能力は人間の知的活動の根幹となるものです。国際的に見て日本の学生の国語力が落ちているという結果が出ていますので、ぜひしっかり勉強して欲しいと思います。

令和3年度 国語総合指導計画案

国語総合	セラミック・デザイン 電気・機械	2単位
------	---------------------	-----

1 学習計画

学 期	学 習 内 容	学 期	学 習 内 容	学 期	学 習 内 容
1 学 期	1 現代文：感動する心 ○ワンダフル・プラネット！	2 学 期	1 現代文：小説を楽しむ ○バスに乗って	3 学 期	1 現代文：日本語を考える ○人生は「動詞」で変わる
	2 古文：古文に親しむ ○古典の魅力 ○ねずみの婿とり (『沙石集』)		2 古文：随筆の楽しみ ○春はあけぼの ○にくきもの (『枕草子』)		2 古文：随筆の楽しみ ○公世の二位のせうとに (『徒然草』)
	3 漢文：漢文のとびら ○漢文のすすめ ○訓読のきまり		3 漢文：故事と史話 ○故事 「守株」「蛇足」 ○史話 「鶏口牛後」		3 漢文：唐詩のしらべ ○春眠暁を覚えず
	4 基礎力テスト (1回10分・月1回)		4 基礎力テスト (1回10分・月1回)		4 基礎力テスト (1回10分・月1回)
	5 表現 ○対話から始めよう		5 表現 ○手紙を書こう		5 表現 ○話し合い

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
地理歴史	世界史A	2	1	全科	必修	世界史A 東京書籍

1. 学習の到達目標

国際化が進む現代に生きる私たちにとって、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養うことが大切だと考えられます。そのために、世界史Aでは、近現代史を中心とする世界の歴史を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、人類の課題を多角的に考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を身に付けることが目標です。

2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の規準	歴史的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追求し、広い視野に立って自己の属する国や地域の特色を理解するとともに、他国や他地域との協調関係を築いていく態度を持つようとする。	歴史的事象から課題を見出し、世界の構造や成り立ちを歴史的な視野から多角的・多角的に考察し、現代の諸課題を歴史的な観点から追究し、公正に判断する。	年表や歴史地図、映像など、歴史に関する様々な史料を収集し、有用な情報を適切に選択して活用するとともに、追求し考察した過程や結果を年表や報告書などにまとめたり、発表や討論などを行ったりする。	諸文明の特質と世界の一体化の過程を地理的条件とわが国の歴史の展開との関係に留意しながら理解し、その知識を身につけている。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況、課題・宿題・ノートなどの提出物の状況、定期考査、小テストなどを総合的に判断して評価します。			

3. 教科からのメッセージ

単なる暗記科目としてとらえるのではなく、私たちの祖先がどのように考え、そしてどのように生きたのか、イメージすることを通して歴史を感じて欲しいと思います。

	目 標	近現代史を中心とする世界の歴史を、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、人類の課題を多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。	
月	大 項 目	中 項 目	時数
4	序説 古代文明の成立 【第1部】近・現代世界史の背景 第1章 ユーラシアの諸地域世界	1. 東アジア世界 2. 東南アジア世界 3. 南アジア世界	6
5		4. 西アジア世界 5. ヨーロッパ世界 6. 南北アメリカ、アフリカ 7. ユーラシアの交流圏	7
6	【第2部】成熟するアジアと世界へむかうヨーロッパ 第2章 アジア諸帝国の繁栄とヨーロッパ	1. 中華帝国の繁栄と東アジア 2. 15～17世紀の東南アジア 3. 西アジアと南アジア 4. 16世紀のヨーロッパ 5. 主権国家体制と世界商業	8
7	第3章 大西洋世界の変容とその波及	1. ヨーロッパとアメリカの諸革命 2. 産業革命と世界市場の拡大 3. ヨーロッパの動乱の波及	6
9	第4章 産業社会の拡大と成熟	1. ウィーン体制とその崩壊 2. 国民国家への道	6
10	第5章 アジア諸国の変貌と日本	1. 東アジアの変容 2. 東南アジアの変容 3. 南アジアの変容 4. 西アジア、アフリカの変容	6
11	【第3部】現代の世界と日本 第6章 帝国と民族の時代	1. 急変する人類社会 2. 植民地の拡大と深まる国家の対立 3. アジア、アフリカの抵抗運動	9
12	第7章 二つの世界大戦の時代	1. 第一次世界大戦 2. 戦後秩序の形成 3. 世界恐慌とファシズム 4. 第二次世界大戦	8
1	第8章 冷戦と民族独立の時代	1. 戦後世界の形成 2. アジア、アフリカの民族運動 3. 冷戦体制の動揺 4. 冷戦の終結	8
2	第9章 グローバル化のなかの危機	1. グローバル化とアメリカ合衆国 2. 地域統合の模索 3. 動揺する中東と世界の地域紛争 4. アジアの変容と多様化	4
3	終章 21世紀に生きる	1. 歴史をみる眼 2. 現在の諸問題 3. 新しい動き 4. あらたな世界史像を求めて	2

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
数学	数学 I	4	1	全科	必修	数学 I Standard 東京書籍

1. 学習の到達目標

数と式, 2次関数, 図形と計量及びデータの分析について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに, 数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の規準	数と式, 2次関数, 図形と計量及びデータの分析の論理や体系に関心をもつとともに, 数学のよさを認識し, それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	数と式, 2次関数, 図形と計量及びデータの分析において, 事象を数学的に考察し表現したり, 思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して, 数学的な見方や考え方を身に付けている。	数と式, 2次関数, 図形と計量及びデータの分析において, 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数と式, 2次関数, 図形と計量及びデータの分析における基本的な概念, 原理・法則などを体系的に理解し, 基礎的な知識を身に付けている。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況、課題・宿題・ノートなどの提出物の状況、定期考査、小テストなどを総合的に判断して評価します。			

3. 教科からのメッセージ

「数学 I」は、高校数学を学ぶうえでの基礎・基本となる内容になっています。中学校までに学んできた数学を復習しながら、徐々に高校数学の内容に移っていきます。社会生活を送る上で必要な数学的な考え方、知識をしっかりと身につけ、活用する能力を磨いてほしいと思います。

4. 年間指導計画

【 数学 I 】	指 導 項 目	進 度
		CDEM
第 1 章 数と式	第 1 節 数と式	4 月
	第 2 節 1 次不等式	5 月
	第 3 節 集合と命題	6 月
第 2 章 2 次関数	第 1 節 2 次関数とグラフ	7 月 9 月 10 月
	第 2 節 2 次方程式と 2 次不等式	
第 3 章 図形と計量	第 1 節 三角比	11 月 12 月
	第 2 節 正弦定理と余弦定理	1 月 2 月
第 4 章 データの分析	1 データの代表値 2 データの散らばり 3 四分位範囲 4 データの相関 5 相関係数 6 表計算ソフトによるデータの分析	3 月

理科

化学基礎	単位数	2単位
	学科・学年・学級	セラミック科，デザイン科 第1学年

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	1. 化学が物質を対象とする科学であることや化学が人間生活に果たしている役割を理解できる。 2. 原子の構造，電子配置と周期律の関係及び，化学結合のしくみについて理解できる。 3. 化学反応式により化学変化を表現し，酸と塩基の反応及び酸化還元反応の基本的な概念や法則が理解できるとともに日常生活や社会と関連付けて考察できる。 4. 上記の目標を達成するために探究活動を行い，学習内容を深めるとともに，化学的に探究する能力を高める。
使用教科書・副教材等	東京書籍「改訂 新編化学基礎」(化基 314) 『ニューサポート 改訂新編化学基礎』

2 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画

発展的学習内容 (◎発展) ; 必要に応じて扱う
各節の授業時間 (h) は発展的内容を含まない。

・評価の観点のポイント(節ごとに記してある)

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1 学習活動の特記事項	考查範囲	評価の観点のポイント			
						関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解
第1学期	序編 化学と人間生活 ・物質について学ぶ「化学」(0.25h) ・文明は金属とともに(1h) 製錬 銅 [観察実験1] 「銅を取り出そう」 鉄 アルミニウム ・セラミックス(0.5h) ガラス 陶磁器 ファインセラミックス ・プラスチック(0.5h) 熱可塑性樹脂 熱硬化性樹脂 機能性樹脂 ・繊維(1h) 合成繊維 ナイロン アクリル繊維 ポリエステル [観察実験2] 「ペットボトルから繊維をつくろう」 ・プラスチックのリサイクルと環境に負荷の少ないプラスチックの開発(0.5h) ・食料の確保(0.25h) 化学肥料 農薬		<ul style="list-style-type: none"> 物質について学ぶ学問としての化学 製錬；金属を利用するための技術 銅と青銅，鉄と鋼，アルミニウム， 銅の利用と合金(工業的製法) [観察実験1] クジャク石から銅を取り出す 鉄の利用と合金(工業的製法) アルミニウムの利用と合金(工業的製法)，リサイクル 非金属天然無機物の高温処理生成物 成形性があり熱に強いが，強い力や急熱急冷に弱い(ガラスの製法) 粘土を高温で焼いたもの 高度に精製した原料から得られるセラミックス 各種の優れた性質をもつ(エレクトロニクス，医療分野) 石油を原料とする人工物質 加熱で軟らかくして成形 成形後加熱しても軟らかくならない イオン交換樹脂，高吸水性樹脂，フッ素樹脂など 世界初の化学繊維レーヨン 石油から作られる繊維 絹の主成分タンパク質の構造に着目したナイロン(ナイロンの工業的製法，実験室的製法) 羊毛の特徴をもつアクリル繊維 ペットボトルの原料でもあるポリエステル [観察実験2] ペットボトルからポリエステル繊維を取り出す マテリアルおよびケミカルリサイクル，生分解性プラスチック 天然資源，化学肥料の合成 殺虫剤，除草剤，生物の体内で分解される農薬など 	【コラム】地下資源が枯渇する!?	第1学期中間考查	○			○

第1学期	<ul style="list-style-type: none"> 食品の保存(0.25h) 従来の保存法 食品添加物等 洗剤(1h) 洗浄のしくみ 洗剤の適量 <p>〔観察実験3〕 「洗剤の適切な使用量を調べよう」 洗剤と環境 合成物質の使用量 化学技術と環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 地球環境と物質の利用(0.25h) <p>〔探究1〕(1h) 「金属の製錬について調べる」 〔探究2〕(1h) 「プラスチックを識別する」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 塩漬け, 砂糖漬け, 干物, 発酵 防腐剤, 調味料, 発色剤, 着色料, 着香料, 酸化防止剤, 真空パック, 窒素充填, 光遮断アルミ蒸着フィルム セッケンと合成洗剤 界面活性剤, 親水基と疎水基, ミセル ミセルの形成と洗剤濃度 〔観察実験3〕を通じた洗剤濃度の影響 微生物による分解, 人体への取り込み 環境リスク, 合成物質の有害性と摂取量 洗剤における酵素利用, 詰め替え容器等全般的配慮 生命環境全体へのリスク評価 <p>〔探究1〕酸化銅(II)のメタノールによる還元を通じて製錬について理解を深める 〔探究2〕身のまわりのプラスチックの性質を比較することで識別する技能を身につける</p>	<p>【コラム】水道水と塩素</p> <p>《編末確認テスト》</p>	○	○	○	○
	<p>1編 物質の構成 1章 物質の成分と構成元素</p> <ul style="list-style-type: none"> 物質の成分(3.5h) 純物質と混合物 混合物の分離と精製 <p>〔観察実験4〕 「赤ワインを蒸留しよう」 〔観察実験5〕 「色素を分離しよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 物質の構成元素(2h) 元素 単体と化合物 元素の確認 <p>〔観察実験6〕 「炎色反応を調べよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 物質の三態(2h) 物質の三態と状態間の変化 粒子の熱運動 <p>〔観察実験7〕 「熱運動による拡散を観察しよう」</p> <p>〔探究3〕(1h) 「しょう油に含まれる食塩を取り出す」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 純物質・混合物の性質(融点, 沸点, 密度) 分離と精製, ろ過, 蒸留・分留, 昇華, 再結晶, 抽出, ペーパークロマトグラフィー 〔観察実験4〕を通じた蒸留の理解 〔観察実験5〕を通じたペーパークロマトグラフィーの理解 成分としての元素, 元素記号, 元素の周期表 単体と化合物, 同素体の意味と具体例, 単体と元素 炎色反応と沈殿による検出 〔観察実験6〕を通じた炎色反応の理解 物質の三態と状態変化, 融解と凝固, 蒸発と凝縮, 昇華, 物理変化と化学変化 拡散, 熱運動と三態, 気体分子の熱運動 絶対温度(ケルビン:K), 絶対零度 〔観察実験7〕を通じた熱運動と拡散の関係についての理解 〔探究3〕しょう油の加熱蒸発, ろ過等の操作で食塩を取り出すことで物質の分離の理解を深める 	<p>問1</p> <p>問2 【コラム】溶解度と溶解度曲線 【コラム】薄層クロマトグラフィー</p> <p>問3, 問4 問5</p> <p>問6, 問7</p> <p>【コラム】元素記号の変遷</p> <p>《章末確認テスト》</p>	第1学期末考査	○	○	○

<p>2章 原子の構造と元素の周期表</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子の構造 (2h) 原子 同位体 〔観察実験 8〕 「放射性同位体の利用について調べよう」 電子配置と周期表 (2h) 原子の電子配置 元素の周期表 〔観察実験 9〕 「アルカリ金属の性質を調べよう」 〔探究 4〕 (1h) 「元素 X の性質を推測する」 		<ul style="list-style-type: none"> 基本的な最小粒子, 原子の大きさ 原子の構造(原子核, 陽子, 中性子, 電子), 原子番号, 質量数 同位体(アイソトープ)と存在比, 放射性同位体とその利用 〔観察実験 8〕を通じた放射性同位体の利用の理解 電子殻(K, L, M...)と最大収容電子数, 電子配置, 最外殻電子, 価電子, 希ガス原子とその電子配置, 閉殻, 単原子分子, 原子番号と電子配置 元素の周期律と周期表(周期と族), 典型元素と遷移元素, アルカリ金属, アルカリ土類, ハロゲン, 希(貴)ガス, 金属元素と非金属元素, 陽性・陰性, 典型元素の利用 〔観察実験 9〕を通じたアルカリ金属としてのナトリウムの性質の理解 〔探究 4〕同族元素間の特徴を用いて, 周期表上では含まれた元素の性質を推測 	<p>【偉人の履歴書 1】 「ジョン・ドルトン」 問 1</p> <p>問 2 【コラム】放射性元素の発見 【コラム】¹⁴Cによる年代測定</p> <p>【偉人の履歴書 2】 「マリー・キュリー」 問 3 【コラム】メンデレーエフと元素の周期表</p> <p>【偉人の履歴書 3】 「ドミトリ・メンデレーエフ」</p> <p>《章末確認テスト》</p>		<p>第 2 学期 中間 考査</p>	<p>○ ○ ○ ○</p>	<p>○ ○ ○ ○</p>	<p>○ ○ ○ ○</p>	
<p>《課題》 〔観察実験〕〔探究〕ならびにそれに関わる提出物 *その他 必要に応じて授業ノートの提出・点検を行う。</p>									
<p>第 2 学期</p> <p>3章 化学結合</p> <ul style="list-style-type: none"> イオンとイオン結合 (4h) イオンの形成 イオンの分類 イオン化エネルギー イオン結合とイオン結晶 イオン結晶の性質 〔観察実験 10〕 「塩化ナトリウム水溶液の電気伝導性を調べよう」 分子と共有結合 (6h) 分子 分子の形成 分子の形 配位結合 電気陰性度と分子の極性 〔観察実験 11〕 「極性のある物質と極性のない物質の性質を調べよう」 分子結晶 		<ul style="list-style-type: none"> 陽イオン, 陰イオン, 電解質, 非電解質 陽イオンとしてのナトリウムイオン, 陰イオンとしての塩化物イオン, 価数 イオン式, 単原子イオンと多原子イオン, イオンの名称 イオン化エネルギーと周期性, 電子親和力 静電的引力(クーロン力), イオン結合, イオン結晶, 組成式, 組成式の書き方と読み方 イオン結晶の性質と利用, へき開 〔観察実験 10〕を通じた塩化ナトリウムの性質の理解 分子の分類(単原子, 二原子, 多原子), 分子式 共有結合による分子の形成, 電子式, 電子対と不対電子, 単結合(共有電子対), 分子の電子式, 非共有電子対, 二重結合, 三重結合, 構造式, 原子価 構造式と分子の形, 分子からなる物質, 高分子化合物(ポリエチレン, PET) 配位結合と共有結合, NH₄⁺, H₃O⁺ 共有電子対と電気陰性度, 結合の極性, 分子の極性(極性分子, 無極性分子), 水への溶解 〔観察実験 11〕を通じて液体の混じりやすさと分子の極性の有無を考える 	<p>問 1</p> <p>問 2</p> <p>問 3</p> <p>問 4 【コラム】食品を温める電子レンジのしくみ</p>	<p>第 2 学期 中間 考査</p> <p>第 2 学期 期末 考査</p>	<p>○ ○ ○ ○</p> <p>○ ○ ○ ○</p>	<p>○ ○ ○ ○</p> <p>○ ○ ○ ○</p>	<p>○ ○ ○ ○</p> <p>○ ○ ○ ○</p>	<p>○ ○ ○ ○</p> <p>○ ○ ○ ○</p>	

	<p>◎分子からなる物質の融点と沸点</p> <p>◎水素結合とファンデルワールス力 共有結合の結晶</p> <p>分子からなる物質の用途</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金属と金属結合(1h) 金属結合 <p>〔観察実験 12〕 「金属の性質を調べよう」</p> <p>◎金属結晶の構造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化学結合と物質の分類(0.5h) <p>〔探究 5〕(1h) 「分子模型を組み立てる」</p> <p>〔探究 6〕(1h) 「物質の性質からの化学結合を推定する」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分子間力, 分子結晶, 分子結晶の融点と沸点 ・分子の質量と沸点と融点 ・分子の極性と沸点と融点 ・水素結合, ファンデルワールス力, 氷の結晶構造 ・共有結合の結晶, ダイヤモンドと黒鉛, ケイ素と二酸化ケイ素 ・有機化合物と無機物質 ・自由電子と金属結合, 金属結晶, 組成式, 金属の性質(金属光沢, 熱・電気伝導性, 延性・展性), 金属とその利用 ・〔観察実験 12〕を通じた金属の性質理解 ・結晶格子と単位格子, 体心立方格子, 面心立方格子, 六方最密構造, 充填率, 配位数 ・化学結合(イオン, 金属, 共有)と分子間力による結晶の分類と性質 ・〔探究 5〕分子模型を組み立てることを通じて, 分子の構造や結合についての認識を深める。さらに, ダイヤモンド, 黒鉛, フラーレン等大きな分子も組み立ててみる。 ・〔探究 6〕ヨウ化カリウム, 亜鉛, ろうの性質を調べ, 化学結合との関係を推定する 	<p>《章末確認テスト》</p>	<p>第2学期期末考査</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	
<p>第3学期</p>	<p>2 編 物質の変化</p> <p>1 章 物質と化学反応式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子量・分子量・式量(2h) 原子の相対質量 原子量・分子量・式量 ・物質(2h) 物質 ・溶液の濃度(2h) 溶液の濃度 ・化学反応式とその量的関係(3h) 化学反応式 化学反応式の表す量的関係 〔観察実験 13〕 「発生する気体の体積を測定しよう」 〔探究 7〕(1h) 「気体の分子量を測定する」 〔探究 8〕(1h) 「化学反応における物質の量的関係を調べる」 	<ul style="list-style-type: none"> ・相対質量の考え方, ^{12}C を基準とする原子の相対質量 ・原子の相対質量に同位体の存在比を考慮した原子量, 分子量(構成原子の原子量の総和), 式量(組成式で表される物質の構成原子の原子量の総和) ・アボガドロ数(^{12}C 12g 中の原子数), 物質(アボガドロ数個の粒子の集団を単位とする物質の量の表し方:単位はモル), 1 モル(mol), アボガドロ定数(1mol あたりの粒子数), モル質量(1mol あたりの質量), 気体 1mol の体積(アボガドロの法則, 0°C, $1.013 \times 10^5 \text{Pa}$ の状態で 22.4L) ・溶質, 溶媒, 溶液, 質量パーセント濃度, モル濃度 ・化学反応式の書き方(反応物, 生成物, 係数), イオン反応式 ・係数の比(分子数, 物質, 体積) ・〔観察実験 13〕を通じた化学反応の量的関係の理解 ・〔探究 7〕を通じた, 反応物の質量と発生気体の体積との関係の理解 ・〔探究 8〕炭酸カルシウムと塩酸の反応により発生した二酸化炭素の体積を測定することで, 量的関係を調べる 	<p>問 1 【コラム】どうして ^{12}C が原子の相対質量の基準なのか</p> <p>問 2, 例題 1, 問 3 【偉人の履歴書 4】 「アメデオ・アボガドロ」</p> <p>問 4, 例題 2, 問 5 例題 3, 問 6</p> <p>問 7, 例題 4, 問 8, 例題 5, 問 9</p> <p>例題 6, 問 10, 問 11</p> <p>例題 7, 問 12</p> <p>【コラム】原子説から分子説へ</p> <p>【偉人の履歴書 5】 「アントワーヌ・ラバアジェ」</p> <p>《章末確認テスト》</p>	<p>学年末考査</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	
<p>《課題》 〔観察実験〕〔探究〕ならびにそれに関わる提出物 *その他 必要に応じて授業ノートの提出・点検を行う。</p>									

第3学期	<p>2章 酸と塩基</p> <ul style="list-style-type: none"> 酸と塩基(2.5h) 酸性と塩基性 酸・塩基の定義 酸・塩基の価数 ブレンステッド・ローリーの酸・塩基の定義 〔観察実験14〕 「いろいろな水溶液の性質を調べよう」 酸・塩基の強弱と電離度 〔観察実験15〕 「水溶液の酸性の強弱を調べよう」 水素イオン濃度とpH(3h) 水の電離と水素イオン濃度 pH ◎水のイオン積 〔観察実験16〕 「水溶液のpHを測定しよう」 pH指示薬とpHの測定 	<ul style="list-style-type: none"> 酸の性質(酸性)、塩基の性質(塩基性) アレニウスの酸と塩基の定義(H^+, OH^-の生成), 酸・塩基の価数 ブレンステッド・ローリーの定義(H^+の授受) 〔観察実験14〕によりいろいろな水溶液の性質を調べる 強酸と強塩基, 弱酸弱塩基, 電離度の定義と強弱の関係, 多段階の電離 〔観察実験15〕を通じて強酸, 弱酸の電離度の違いについて理解を深める 水の電離, 水素イオン濃度$[H^+]$と水酸化物イオン濃度$[OH^-]$の定義, 中性の意味($[H^+]=[OH^-]$) pHと$[H^+]$・$[OH^-]$の関係, pHの求め方, pHと酸性・中性・塩基性との関係 $K_w=[H^+][OH^-]=1.0 \times 10^{-14}(\text{mol/L})^2$ 〔観察実験16〕によりpHを測定する pH指示薬(メチルオレンジ, フェノールフタレイン, プロモチモールブルー(BTB)等), 変色域, 万能pH試験紙, pHメーター, 身のまわりの物質のpH 	<p>問1</p> <p>【コラム】酸・塩基の歴史と利用</p> <p>問2</p> <p>問3</p> <p>例題1, 問4</p> <p>【コラム】大気中の酸性物質～酸性雨～</p>	学 年 末 考 査	○		○	○
	<ul style="list-style-type: none"> 中和反応と塩(1.5h) 酸と塩基の中和 塩 〔観察実験17〕 「塩の水溶液の性質を調べよう」 ◎塩の加水分解 中和滴定(2.5h) 中和反応の量的関係 中和滴定 滴定曲線 〔探究9〕(1h) 「滴定曲線をかく」 〔探究10〕(1h) 「食酢の濃度を調べる」 	<ul style="list-style-type: none"> 中和反応 塩の生成, 塩の分類(正塩・酸性塩・塩基性塩), 塩の水溶液の性質 〔観察実験17〕を通じて塩の水溶液の性質を考察する 塩の加水分解と水溶液の性質 中和の条件; 酸の価数×酸の物質質量=塩基の価数×塩基の物質質量(酸から生じるH^+の物質質量=塩基から生じるOH^-の物質質量) 中和滴定と操作, 標準溶液, 中和点, 中和滴定に使用する器具 滴定曲線の種類(強酸・強塩基, 弱酸・強塩基, 強酸・弱塩基), 中和滴定に使用する器具, 指示薬の選択, 安全ピペッター 〔探究9〕塩酸, 硫酸, 硝酸を水酸化ナトリウム水溶液で中和滴定し, 滴定曲線を描く 〔探究10〕食酢の濃度を中和滴定で測定することで, 器具の扱いや操作の方法を習得する 	<p>問5</p> <p>問6</p> <p>問7</p> <p>【コラム】酸・塩基の標準溶液について</p> <p>《章末確認テスト》</p>		学 年 末 考 査			○

(2) 評価の観点・内容及び評価方法 ○学習指導要領に基づく総括的評価基準 ・具体的な評価の観点・内容

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ○自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身につけている。 ・講義式、実験式いずれの授業においても集中力を保つ。 ・授業で得た結果を基に発展的な興味をもって自主的活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題 ・観察実験レポート ・授業態度 ・チェックテスト
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 ・授業内容について科学的な捉え方ができる。 ・授業の成果をいかして社会や生活との関連を考えられる。 ・発展的な内容についても思考を展開することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・課題 ・観察実験レポート ・授業態度 ・チェックテスト
観察・実験の技能	<ul style="list-style-type: none"> ○観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。 ・操作の意味をよく理解し、実技のレベルが的確である。 ・実験結果に対する考察が充分であり、その内容を適切に伝達できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察実験レポート ・授業態度 ・定期考査
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ○自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。 ・学んだ内容が関連付けて整理され定着している。 ・知識を用いて発展的な応用ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・課題 ・観察実験レポート ・チェックテスト

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
保健体育	体育	2	1	全科	必修	なし

1. 学習の到達目標

運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
評価の規準	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身に付けるとともに、健康・安全に留意して自ら運動をしようとする。	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の技能を高めている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めているための運動の合理的な行い方を身に付けている。	社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況、課題・プリントなどの提出物の状況、小テストなどを総合的に判断して評価します。			

3. 教科からのメッセージ

体育の授業では、体づくり運動、体育理論、選択制（希望種目）授業を行っており、学期ごとに種目を変えています。また、新体力テストの実施も行っています。

単に一過性の楽しさの追求だけでなく、技能を習得したり、高めたりする喜びや、運動の特性に応じた楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動に親しむ資質を養うことが大切です。

年間指導計画 科目名 保健体育（体育） 2単位 1学年

学期	月	学習項目 (単元・考査など)	おもな学習内容
1 学期	4 5	体育理論 体づくり運動 (スポーツテスト含む)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体に関心を持ち、自分の体力や生活に応じた課題を持って運動を行い、体ほぐしをしたり、体力を高めたりするとともに、これらの運動を生活の中で実践することができるようにする。 体づくり運動に対する関心や意欲を高めるとともに、互いに協力して運動ができるようにする。
	6 7	体育理論 選択Ⅰ 陸上競技 ダンス 器械運動	<ul style="list-style-type: none"> 自分の能力に応じて運動の技能を高め、競技したり、記録を高めたりすることができるようにする。 互いに協力して練習や競技ができるようにするとともに、健康・安全に留意して練習や競技ができるようにする。 リズムのとり方や動き方、相手との対応のしかたなど自由に工夫できるようにする。 まとまりのある動きを工夫して踊ったり作品にまとめ発表しあったりできるようにする。
2 学期	9 10	体育理論 選択Ⅱ バレーボール ソフトボール 武道（剣道、柔道）	<ul style="list-style-type: none"> チームの課題や自分の能力に応じて運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。 生涯にわたって親しめるように、各競技の特性や効果的な練習法、正しい審判法、ゲームの運営などについて理解する。 基本動作や得意技を身に付け、相手の動きに対応した攻防を展開して練習や試合ができるようにする。 武道の特性や伝統的な行動の仕方を理解する。
	11 12	体育理論 選択Ⅲ バレーボール ソフトボール 武道（剣道、柔道）	同上
3 学期	1 2 3	体育理論 球技Ⅳ バスケットボール サッカー	<ul style="list-style-type: none"> チームの課題や自分の能力に応じて運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。 生涯にわたって親しめるように、各競技の特性や効果的な練習法、正しい審判法、ゲームの運営などについて理解する。

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
保健体育	保健	1	1	全科	必修	現代保健体育 大修館

1. 学習の到達目標

個人および社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力をそだてることを目標とする。

2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
評価の規準	個人生活や社会生活における健康・安全に関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。	個人生活や社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断している。	個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	出席状況、授業態度、学習の取り組み状況、課題・ノートなどの提出物の状況、定期考査などを総合的に判断して評価する。		

3. 教科からのメッセージ

健康は生涯を通じた人間の生活にとっての重要な土台となります。しかし、人々のすべてが理想的な健康状態を保つのは難しいことです。個人の努力だけではなく、社会の一員として健康の問題を考え健康的な生活習慣を身につけたり、健康に好ましい環境をつくるための知識と能力を高めたり、また生涯スポーツに向けて運動技能を高めたりして、それらを実践することが大切です。

年間指導計画 科目名 保健体育 (保健) 1 単位 1 学年

学期	月	学習項目 (単元・考査など)	おもな学習内容	
1	4	【現代社会と健康】 1. 私たちの健康のすがた 2. 健康のとらえ方	・健康の考え方やその保持増進の方法は、個人の適切な意思決定や行動選択が重要となっていることを理解する。	
	5	3. 健康と意思決定・行動選択	・健康を保持増進するとともに、生活習慣病を予防するためには、	
	6	4. 健康に関する環境づくり	食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践できるようにする。	
		5. 生活習慣病とその予防	・喫煙、飲酒による健康影響を理解し、適切な意思決定や行動選択が必要であることを理解する。	
	7	6. 食事と健康		
		7. 運動と健康		
	8	8. 休養・睡眠と健康		
		9. 喫煙と健康		
		10. 飲酒と健康	・薬物乱用は心身の健康などに深刻な影響を与えることから行ってはならないことを理解する。	
		11. 薬物乱用と健康	・感染症の予防には適切な対策が必要であることを理解する。また、性に関わる感染症の問題について理解する。	
	2	9	12. 現代の感染症	
10		13. 感染症の予防		
		14. 性感染症・エイズとその予防	・人間の欲求と適応機制には様々な種類があること及び精神と身体には密接な関連があることを理解する。	
11		15. 欲求と適応規制	・精神の健康を保持増進するためには、欲求やストレスに適切に対処するとともに、自己実現を図るよう努力していくことが重要であることを理解する。	
		16. 心身の相関とストレス		
12		17. ストレスへの対処		
		18. 心の健康と自己実現		
		19. 交通事故の現状と要因	・車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度及び交通環境の整備などが重要であることを理解する。また、責任や補償問題が生じることを理解する。	
3		1	20. 交通社会における運転者の資質と責任	
		2	21. 安全な交通環境づくり	
	3	22. 応急手当の意義とその基本	・障害や疾病に際しては、心肺蘇生法などの応急手当を行うことが重要であることや正しい手順や方法があることを理解する。	
		23. 心肺蘇生法		
		24. 日常的な応急手当		

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
外国語	コミュニケーション 英語 I	2	1	全科	必修	COMET English Communication I

1. 学習の到達目標

英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、英語で相手の考えなどを理解したり、英語で自分の意見などを表現したりできる基礎的な能力を養う。

2. 学習の評価

評価の観点	コミュニケーション への 関心・意欲・態度	外国語 表現の能力	外国語 理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
評価の規準	英語に関心をもち、意欲的に授業に参加してコミュニケーションを図ろうという態度が見られるか。	自分の考えなどを英文で表現しようと努力しているか。 標準的な発音で英語を話そうと努力しているか。	英語を聞いたり読んだりして、相手の考えや文章の内容を理解しようと努力しているか。	英語の基本的な語彙や語法などについて理解しているか。 欧米の文化や自国の文化について理解しているか。
評価の方法	授業態度、学習への取り組み、提出物、小テスト、定期考査、基礎力テスト等をもとに、総合的に評価します。			

3. 教科からのメッセージ

英語は外国語の一つに過ぎませんが、今では世界中で使われることが最も多く、また、ほかの言語に比べ簡単に学ぶことができるため、国際語のひとつに考えられています。

人と人をつなぐのは、まず言葉です。お互いに言葉が通じるのは、素晴らしいことです。英語という世界共通の言葉を学ぶことによって、自分の思いを世界中の多くの人々に伝えることができるだけでなく、多くの人々の考えを知ることができるからです。

「コミュニケーション英語 I」では、昨年「英語基礎」で学んだことを復習しながら、やさしい英語を使って意思の疎通ができる基礎的な力を養います。ぜひ、お互いの意思を伝え合う喜びや感動を味わってください。You can do it! やればできる! Let's try.

年間指導計画

学期	月	項目	指導内容	配当時間
I	4	Get Ready! Lesson1 Why Do You Study English?	Alphabet(アルファベット) Classroom English(教室英語) Japanglish (和製英語) 【文法・語法】 現在形・過去形 ＜表現＞ 聞き返す表現 Pardon?	7
	5	Lesson2 Washoku: Our Traditional Food	【文法・語法】 助動詞 ＜表現＞ 人を誘う表現 Why don' t we ~?	6
	6	文法のまとめ 1	文の成り立ち・文の種類・時制	3
		Activity 1 Read Aloud ①	音読活動	3
		Lesson3 What should I do?	【文法・語法】 進行形 ＜表現＞ 人に助言する表現 Why not ~?	7
	7	Challenge 1 T-shirt for Our Class!	書く活動 話す活動	4
	II	9	Lesson4 My School, Your School	【文法・語法】 不定詞 (名詞用法・形容詞用法・副詞用法) ＜表現＞ 相手の許可を求める表現 Can I ~?
10		Lesson5 Peace, the Polar Bear	【文法・語法】 動名詞 (主語・補語・目的語) ＜表現＞ 人に依頼する表現 Could you ~?	7
11		文法のまとめ 2	【文法・語法】 時制・不定詞・動名詞	7
		Activity 2 My Treasure	書く活動 話す活動	5
12		Reading1 Let's Try Riddle	なぞなぞ	4
III	1	Lesson6 Flying Wheelchairs	【文法・語法】 現在完了 (継続・経験・完了) ＜表現＞感謝を表す表現 Thank you for ~.	7
	2	Challenge 2 Make your Own Crossword Puzzle!	書く活動 話す活動	3
	3	1年間の復習		3

教科	科目	単位数	学年	学科	区分	使用教科書
家庭	家庭基礎	2	1	セラミック デザイン	必修	図説家庭基礎 実教出版

1. 学習の到達目標

家庭基礎では、人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族・家庭の意義、家族、子ども、高齢者、そして社会との関わりについて理解します。自立した生活にむけて基礎的な知識と技術を習得するとともに、家庭生活の充実向上をはかる力と実践的な態度を身に付けることが目標です。

2. 学習の評価

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の規準	家庭や地域の生活について関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	家庭や地域の生活について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身に付けている。	家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。
評価の方法	出席状況、授業態度、作品や課題・レポートなどの提出物の状況、定期考査などを総合的に判断して評価します。			

3. 教科からのメッセージ

家庭科の学習を通じて学んでほしいこと、それは、生きていく上で必要なことを誰かに頼らなくてもすむような自立性を身に付けてほしいということです。経験の積み重ねによって技術は向上していきます。学校で学習した内容を、実際の生活の場で実践し、定着させることが大切です。また、日頃から今社会の中で問題になっている様々なことに目を向けるなど、家庭を取り巻く環境に関心を持ち、自分自身の生活に置き換えて考える姿勢を持ちましょう。

目標		人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族・家庭の意義、子ども、高齢者、そして社会との関わりについて理解する。自立した生活にむけて基礎的な知識と技術を習得し、家庭生活の充実向上をはかる力と実践的な態度を育てる。	
月	大項目	中項目	時数
4	家庭科を学ぶにあたって	「家庭基礎」を学ぶにあたって、学習の意義や内容・方法・評価について理解する。	1
5	第2編 生活をつくる ・2章 衣生活をつくる	1. 人と衣服のかかわり 2. 衣服の機能 3. 衣服の素材を見てみよう 発展 ペンケース制作	13
6 7	・1章 食生活をつくる	1. 私たちの食生活 2. 食品の栄養素とからだの成分 3. 炭水化物とその食品 4. 脂質とその食品 5. 食物4級検定説明 6. 食物4級検定の実技試験	12
9	・3章 住生活をつくる	1. 人と住まいのかかわり 2. 住空間の成り立ちと平面計画	4
10	第3編 消費者として自立する ・1章 消費行動を考える	1. 主体的な消費行動と契約 2. 多様化する販売方法と問題商法 3. 適切な契約、製品による事故	6
11	・2章 経済的に自立する 生活設計	・調理実習①・②	6
12	第1編 人とかかわって生きる ・1章 自分らしい生き方と家族	1. これからの人生を生きる 2. 人生を設計するために考えること 1. 自分を見つめる 2. ライフステージと発達課題 3. 自分らしく生きることと、共に生きること 4. 共に生きる家族	6
	ホームプロジェクト	実践活動	2
1	・2章 子どもとかかわる	1. 子どもを知る 2. からだの発達 3. 感覚・運動機能と知能の発達	8
2	・3章 高齢者と関わる	1. 高齢社会に生きる私たちの暮らし 2. 高齢者の心身の変化	6
3	・4章 社会とかかわる	1. 支え合う暮らしとは 2. 私たちの社会福祉	

